

養護について
(生命の保持・情緒の安定)

policy

3

自然豊かな環境、あたたかい 人とのふれあい・体験をもとに 育まれる「生きる力」



子どもたちの成長にとってより良い環境とはなにか、今なにを提供することが必要かを常に職員間で話し合いながら、保育を展開しています。危険のないよう安全には留意しながら、森や川などの自然遊びを行い、子ども自身が身の回りの様々なことに関心を持って豊かな感性や感情を育めるようにと考えています。

また、人を信頼する心・繋がりを求める心が生まれる大切なこの時期、安心して動き出せる雰囲気づくりを心掛は一人ひとりが毎日をいきいきと過ごせるようにしていきます。

心もからだも、健康に過ごせるように

子どもたちの健やかな成長と健康的な生活の基盤は、生活リズムです。正しい生活リズムをつくるためには大人の配慮が不可欠。園では、自然の中に飛び出す外遊びと、ゆったりした雰囲気の中での室内活動や休息、食育体験などを通して、子どもたちがこれから生きていく上での基盤となる、正しい生活リズムを身に付けられるようにします。



心身の
健康の維持と
向上

自然の中で
学ぶ知恵、
感じる心



自然は「ワクワク」の源

自然の中で、五感で感じながら遊ぶ経験を大切にしています。どろんこまみれでおだんごをついたり、木登りにチャレンジしたり…。時には危険なことにも遭遇しますが、それも貴重な経験!安全に遊ぶ方法を子ども自身が体験を通して学び、身に付けることを大切にしています。自然の中での体験が、子どもの感受性や好奇心を満たし、心もからだも成長させます。

愛されている安心感の中でのびのびと表現する

子どもたち一人ひとりかけがえのない存在。周囲の人々の愛に包まれて、安心して自分の気持ちを表現する経験は、心の大きな根っこになります。「大切な存在だよ」。私たちはそんな想いを込めて一人ひとりを見つめ、受けとめ、一緒に笑い、感動して、心の動きや成長を感じ取ることを大切にしています。自己肯定感を構築していく基礎は乳幼児期に育まれます。



小さな心に
寄り添い
愛で満たす

「自分から」動き出せる心

子どもは心が満たされると、身の回りのものにも関心を持つようになります。手を伸ばして触れてみると「わ～楽しい!」「おもしろい!」。そして「またやってみたい」という気持ちが生まれます。子どもたちから湧き上がる気持ちに寄り添い、時には励まし、見守る。子どもが自分で選択し、決定していく主体性、生きることへの意欲、希望を育みます。



主体的な
「生きる力」を
育てる